

財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

2012年9月号

発行編集人

財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
理事長 シュベネマン クラウス

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第537号

関西セミナーハウス活動センターが実施している様々なプログラムのひとつに開発教育セミナーがある。私が開発教育と出会ったのは、スタディツアーでインドやフィリピンなどを訪ねた経験から、途上国と先進国の「南北問題」に関心を持ったからだ。この問題の原因を理解し、それらが自分とつながっていることに気づいたり、人間の尊厳を前提とし、世界の文化の多様性を理解したりすることなど、開発教育で学ぼうとする内容に共感した。また、開発教育がかかげる①知ること②考えること③変わり、行動することを通して、共に生きることのできる公正な社会を実現していくという目標は、社会科の教員でもあった自分にとって、これより先も仕事を続けていく目標ともなった。さらに開発教育が参加型の手法を用いることも魅力的で、体験的に学ぼうと開発教育セミナーに通うようになり、2000年度から本セミナーの運営委員を続けている。

さて、この7月、本セミナーから生まれた4冊目の教材本『身近なことから世界と私を

考える授業Ⅱ』が出版された。3冊目の「1000円ショップ」「コンビニ」「牛肉」「野宿問題」に続き、「オキナワ」「多みんぞくニホン」「核と温暖化」をテーマに取り上げ、いずれも私たち自身のくらしから世界について考えようとしている。それは途上国と先進国の関係に注目した開発教育

夫さん、陳天璽さん、榎井緑さん、田中宏さん、リリアン・テルミ・ハタノさん、鈴木健さん、村木美都子さん、犬養光博さんが挙げられる。時には東九条や筑豊などの現場を歩きながら、講師と参加者と共に話し合いを積み重ねてきた。教材化にあたっては、私は主に在日コリアンのところ

「はなしあい」を積み重ねながら



関西セミナーハウス活動センター

運営委員 織田 雪江

から発展して、日本社会における「南的」な課題を構造的に理解する試みでもある。

こうした教材の作成も、年に6回、1泊2日を基本とした本セミナーでの学びが基礎となっている。例えば、「多みんぞくニホン」というテーマに関連した講師には、私の知っているだけでも、廣瀬聡

を担当したが、当事者の声を聞き、彼らの歴史的な経験を伝えたいと思ったこと、少しずつでも権利を回復してきた過程を知り、社会を変えられることを感じて欲しいと思つたこと、朝鮮学校のおこりに奪われた言葉や文化を取り戻したいという普遍的な思いがあることを知らせたいと思つたことなど、それまで感じたり学んだりしてきたことを盛り込もうとした。

今年度の第5回開発教育

セミナー（11月10日・11日）では、この新しい教材本を媒介に、「多みんぞくニホン」を生きる〜在日コリアンとベトナム難民〜と題して、日本社会の問題を探り、共生社会のあり方をともに考える。続く第6回（12月8日・9日）の「日本に基地はもういらない!？」沖繩を太平洋の要石から平和を展望する拠点へ〜」では、今なお米軍基地が集中する沖繩について、ここに至るまでの歴史をひもとくことから始める。本セミナーでも沖繩へは何度か訪問したが、昨年度勤務校での研修旅行を引率して、変わらない現状に愕然とした。その後読んだ著書に感銘して講師をお願いしたのは豊下楯彦さん（関西学院大学）である。セミナーは教員にとっては教材作成に向けての耕しの時間でもあるが、何より自分自身の社会との関わり方などを問われることも多い。だから、教員以外のいるいるな方にも話し合いの輪に加わっていただき、日本社会の抱える課題について共に理解を深め、行動につなげられたらと思う。

（同志社中学校・高等学校教諭）

関西セミナーハウス活動センター

●修学院フォーラム「高齢を生きる―認知症・胃ろう・尊厳死を見据えて―」第1回
「高齢者の終末期医療とケアを考える」

鈴鹿医療科学大学教授 葛原 茂樹さん
2012年5月12日(土)



最初に、日本の高齢化のスピードが他国と比べ、格段に早く、それに日本社会が十分に対応できていないことが、テーマとなった終末期医療をめぐる問題の背景として詳細な統計データと共に述べられた。さらに講師は、自らが訪ねたスイスの特別養護老人ホームの様子を具体的に示しながら、ヨーロッパと日本の現状の違いが何に起因するのかを参加者に問いかけた。後期認知症患者が嚥下障害など

を起すと、ほぼ自動的に胃ろうが造設され、結果的に寝たきりの患者を増やすことになつてゐる日本の現実と、寝たきりの高齢者がほとんどいないヨーロッパの現実との対比を通じて、日本の高齢者医療・介護の問題点が明確にされていった。ヨーロッパでは、本人による事前の意思表示と自然死の受容が一般的になつてゐるが、日本で同様のことを実施するには、まだ様々な困難が横たわつてゐる。しかし、今年一月に日本老年医学会が、胃ろうをはじめとする延命治療の差し控えの可能性について言及したことから、変化の兆しが現れているといふことも語られた。

自己紹介および討論の時間を通じて、参加者が抱えてい

る切実な実情が語られると同時に、それに対し、講師だけでなく、参加者の中にいた医療・福祉関係者の多数がそれぞれの視点から意見を述べ、非常に充実した対話の時間を持つことができた。講師は日本の宗教伝統や死生観が現代医療にもたらしている影響についても言及したが、その点については十分に深める時間を持つことができなかった。で、今後の企画において検討していきたい。

●2012年度「神学生交流会」第1回
「イスラームとの対話から」

同志社大学神学部教授 小原 克博さん
2012年5月19日(土)



2012年度第1回「神学生交流会」では、同志社大学神学部の教授で関西セミナーハウス活動センター運営委員

でもある小原克博先生にイスラームとキリスト教の相互理解を求めて、今回はイスラームについてお話を伺った。参加者は、6人であつたが充実した話し合いが持てた。イスラームは、タリバンなど一部の過激な団体のことしか知られていなくて、危険な団体であるという間違つた印象が広まっている。しかし、ほとんどのイスラームは紳士



的でキリスト教徒と同じように敬虔な信仰生活をしている。

キリスト教では政教分離が広く認められた考え方であるが、イスラームではシャリーアと呼ばれるイスラーム法を持つており、信仰生活と社会生活を規定している。イスラームではモスクに所属意識はないがキリスト教では各個教会に所属意識があるなどの違いはある。

グローバルな時代になつて日本社会も多文化共生社会を目指してイスラームとの対話を大事にして、学校や職場にイスラームの人の祈禱の場所を用意するなどの配慮をしていくならば、仏教徒やキリスト教徒にとつても恵まれた環境が整えられる機会になるのではないかと考えられる。

以上のようなお話の後、参加者が全員質問や意見を述べる機会が持てた。イスラームだけでなく外国人労働者との関わりも、同化か排除ではなく、共生の工夫を大事にすることが未来を拓く鍵であると思わせられた。



白浜・三段壁での自殺救助活動を続ける講師の藤敷庸一さんは、最初に自殺防止の活動の原点を「良心」と表現して講演を始めた。自分たちの活動を、行政への権利の主張や要求ではなく、良心によるものとし、自分たちだけでも行くと覚悟を決めているのだと語った。そして、そのような時に、必ず一緒にやろうという人が出てくるのだ、と。

活動の中で、自殺を志願し保護した人々の中には、幼少期に生まれついた人が多いことに気づき、「自然塾」や「放課後クラブ」「夏休み自由研

●2012年度修学院フォーラム「若者の未来に寄り添う―自傷、自死、カルトへの衝動のなかで―」第1回
「思春期までのこともと向き合って学んだこと」

白浜バプテリスト教会牧師
 NPOの自派レスキューネットワーク代表 藤敷 庸一さん

2012年6月16日(土)



究クラブ」などを始めた。自殺に追い込まれるリスクを減らすためには、教育という中長期的な課題を考えねばならないのだ。こどもの時代に信頼できる大人をどれだけ持つことができるか、がポイントだという。

講師の活動経験を踏まえた情熱的な講演を聞いた後、活発な質疑応答、話し合いが

なされた。「多岐にわたる多忙な働きを支えは何であるのか」との問いに対して、講師は「神は全部知っている、という確信」と答えた。自殺を

防ぐために打てる手は全部打つが、でも最後は何もできない、できないけれどすべてを知っていてくれる神がいるという確信が支えてくれる、と。

●2012年度「開発教育セミナー」第1回
「開発教育入門セミナー」
 Think Globally, Act Locally
 「足もと」と「世界」をつなぐ

(協力プログラム)

2012年6月3日(日) 京都市国際交流会館

〈主催〉

(独)国際協力機構 関西国際センター(JICA関西)
 (公財)京都市国際交流協会

このセミナーは、開発教育の入門編として、無料で受講できる。高校生から、シニアまで、幅広い年齢層の参加者が集まった。関西セミナーハウス活動センター開発教育研究会は、導入の「開発教育とは？」と、3つのアクティビティ「アクティビティを体験しよう!」、「コーヒーモノガタリ」、「マージナルと日本」を担当した。



講師の情熱あふれる言葉に、参加者一同、力を与えられるプログラムであった。

プログラム案内

◆**関東活動センター**

■**日本クリスチャン・アカデミー 聖書講座**

「旧約聖書と新約聖書—「聖書」とはなにか」

講師：上村 静さん(東京大学非常勤講師)
日 時：2012年6月～12月の土曜日・原則月1回 全5回 14:00～16:00

③9月29日(土)④10月27日(土)
⑤12月1日(土)*①②は終了
会 場：日本キリスト教会館6階会議室

参加費：1,200円(賛助会員1,000円/学生500円)

テキスト：『旧約聖書と新約聖書』(2011年刊・新教出版社)

共 催：早稲田奉仕園

■**今日的課題プログラム「その後の被災地～災害と心のケアについて」**

講師：大江 浩さん(日本キリスト教海外医療協力会 総主事)

日 時：2012年9月21日(金) 18:30～20:30

会 場：日本キリスト教会館6階会議室

参加費：1,000円(賛助会員900円/学生500円)

共 催：日本基督教団東京教区北支区

財団本部 <http://www.academy-nippon.com>
関東活動センター <http://www.academy-tokyo.com>
関西セミナーハウス <http://www.kansai-seminarhouse.com/>
関西セミナーハウス活動センター <http://www.academy-kansai.org>

財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
理事長 シュベネマン クラウス
本部事務局
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
TEL 075-711-2147
FAX 075-701-5256
関東活動センター
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館1F
TEL 03-3207-6198
FAX 03-3207-2478
E-mail:info@academy-tokyo.com
関西セミナーハウス/
関西セミナーハウス活動センター
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
FAX 075-701-5256
関西セミナーハウス
TEL 075-711-2115
E-mail:info@academy-kansai.com
関西セミナーハウス活動センター
TEL 075-711-2117
E-mail:office@academy-kansai.org

◆**関西セミナーハウス活動センター**
■**神学生交流会**

2012年度第2回「病む人たちとイエス」
講師：榎本 てる子さん(関西学院大学神学部准教授)

日 時：2012年10月6日(土) 13:30～17:00

■**2012年度 修学院フォーラム「エネルギーを考える」**

「原子力発電の根本的問題と我々の選択」

講師：北澤 宏一さん(独立行政法人科学技術振興機構顧問・前理事長、福島原発事故民間独立調査委員会委員長)
栗林 輝夫さん(関西学院大学法学部教授)

日 時：2012年10月7日(日)16:00～8日(月・祝)16:00

参加費：12,500円、学生10,000円(宿泊3食込み)

■**開発教育セミナー**
2012年度第4回「脱成長の社会を

デザインする～「豊かさのものさし」を見直す～

講師：中野 佳裕さん(国際基督教大学社会科学研究所)

日 時：2012年10月13日(土) 16:00～14日(日)12:00

参加費：10,500円(1泊2食込み)

■**2012年度 修学院フォーラム**
「高齢を生きる一認知症・胃ろう・尊厳死を見据えて」

第2回「高齢者福祉を繕う—NPOちいろばの働きを考える」

講師：君村 淳(NPOちいろば「晴れる屋」責任者)

君村 千代子(NPOちいろば「スカサ」責任者)

日 時：2012年10月27日(土) 12:00～15:30

会 場：あなたの居場所「スカサ」(京都市伏見区)

参加費：1,000円、学生500円(ランチ・コーヒー込み)

賛助会費・後援会費・寄付金報告

2012年6月1日～2012年7月31日
(順不同・敬称略)

◆**関東活動センター 賛助会費**

大澤 英二 5,000
只野 哲 5,000
中井 博雅 5,000
松田 俊彦 5,000
横野 朝彦 10,000
市川 邦雄 5,000
島田 治夫 2,500
横山 波子 5,000
桃井 明男 5,000
西浦 昭英 5,000
古賀 博 5,000
藤野 冷子 5,000

寄付金

中井 博雅 5,000
無名氏 1,400
無名氏 950

◆**関西セミナーハウス**

寄付金
森口 克洋 10,000
株式会社柴橋商会 30,000
櫻楓会 5,000
中井 博雅 30,000

改修工事寄付金

日本ベッド製造株式会社 30,000
島田 恒 30,000

◆**関西セミナーハウス活動センター**

賛助会費
細井 敏子 5,000
松岡 蓉子 5,000
塚本 誠一 5,000
小山 稔 5,000
瀬織 好子 3,000
北城 伊三郎 5,000
松下 広子 5,000
橘 俊子 10,000
江澤 時 5,000

竹中 百合子 5,000
大島 順子 5,000
織田 雪江 5,000
宮田 満雄 3,000
保田 茂 3,000
陶村 世佳子 5,000
高寺 幸子 5,000
魚木 アサ 5,000
中滝 孝明 5,000
田中 潤治 3,000
島田 恒 10,000
佐野 千枝子 5,000
日高 正宏 10,000
水嶋 保 5,000
小澤 妙子 5,000
岡山 孝太郎 5,000
東 千代 5,000
野田 純一・恵津 10,000
松村 直子 10,000
中村 信博 10,000

寄付金

鈴木 崇裕 532,001
姫野 真知夫 5,000
日本基督教団賀茂教会 5,000
西村 久代 5,000
橘 俊子 10,000
松原 千里 3,000
小久保 正 200,000
金山 顕子 1,040
魚木 アサ 5,000
島田 恒 10,000
阿部 志郎 3,000
日高 正宏 10,000
真鍋 裕子 5,000
日本基督教団希望ヶ丘教会 10,000
松村 直子 10,000
中村 信博 30,000
金山 顕子 1,040
京都キリスト教協議会(KCC) 20,000
以上、感謝をもってご報告申し上げます。